

Panda3D 基礎技術

3Dゲームエンジンの基本概念

Panda3D



- オープンソースの3Dゲームエンジン
- C++で実装され、Pythonバインディングを提供
- Disneyが開発し、2002年にオープンソース化
- Carnegie Mellon大学が共同で開発
- クロスプラットフォーム対応（Windows、Linux、macOS）

Panda3D の主要な機能



- **既定のマウス操作** 右ボタン, 左ボタンを押しながらマウスを動かすと, シーン全体が動く
- **3次元モデルファイルの読み込み** `loadModel`
- **3次元モデルの配置**
 - 位置 `setPos`
 - 拡大縮小 `setScale`
 - 回転 `setQuat`
- **イベントハンドラの登録** `accept`
- **キーコード**の例 “A”, “space”, “enter”, “arrow_left”, “arrow_up”, “arrow_down”, “arrow_right” など
- **オブジェクトの位置取得と操作** `set, get`
- **自動で動かす** `taskMgr.add`

ゲームループとフレーム



ゲームループの概念

- 3Dゲームエンジンの繰り返し処理
- ゲーム実行中、毎秒数十～数百回実行
- 1回の繰り返し = 1フレーム

FPS (Frames Per Second)

- フレームレートの指標
- 一般的なゲームでは 60fps が目安

デルタ時間 (Delta Time)

- 前フレームから現在フレームまでの経過時間（秒単位）
- フレームレート非依存の動作を実現

例：1秒間に10度回転させる場合 → 每フレーム「 $10 \times dt$ 」度ずつ回転

Panda3Dプログラムの基本構造



1. モジュールのインポート



2. ShowBaseクラスを継承したアプリケーションクラスの定義



3. オブジェクトの作成と設定



4. app.run()でゲームループ実行

継承とは

- 既存のクラス (ShowBase) の機能を引き継いで新しいクラスを作成する仕組み
- class MyApp(ShowBase):** と記述することで、ShowBaseの機能を持つMyAppクラスを定義



ShowBaseクラスの継承

- Panda3Dアプリケーションの基盤
- レンダリング、入力管理、タスク管理を担当

コード例

```
from direct.showbase.ShowBase import ShowBase  
class MyApp(ShowBase):  
  
    def __init__(self):  
        ShowBase.__init__(self)  
        # ここにオブジェクトの作成・設定を記述  
  
app = MyApp()  
app.run()
```

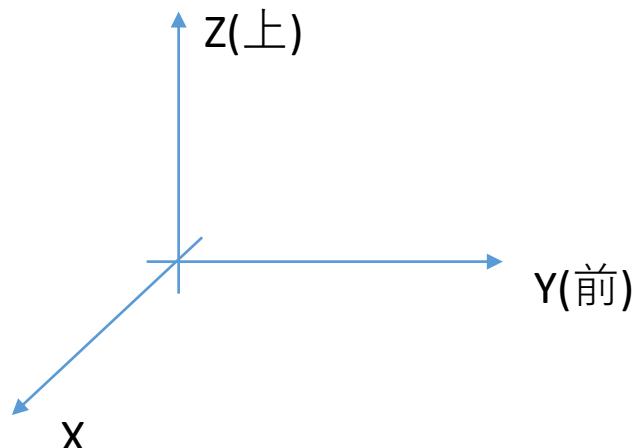
3D直交座標系の基礎



3次元直交座標系

- XYZ軸による位置表現
- 3つの数値(x, y, z)で空間内の点を特定

Panda3Dの座標系 (Z-up右手座標系)



ベクトルと座標系の種類



・ベクトル

- ・大きさと方向を持つ量
- ・ (x, y, z) の3成分で表現
- ・位置、速度、加速度などを表現

・座標系の種類

1. 絶対座標（ワールド座標）

- ・原点 $(0, 0, 0)$ を基準とした座標

2. 相対座標（ローカル座標）

- ・親オブジェクトを基準とした座標
- ・親が移動すると子も一緒に移動

・シーディングラフ

- ・オブジェクトを階層構造（木構造）で管理
- ・`self.render`がルートノード
- ・`reparentTo()`で親子関係を設定

3つの基本変換



- **移動 (Translation)**

```
cube.setPos(0, 5, 1) # X=0, Y=5, Z=1に
```

- **回転 (Rotation)**

- Heading (H) : Y軸周りの回転
- Pitch (P) : X軸周りの回転
- Roll (R) : Z軸周りの回転
- 角度は 0~360度で指定

```
cube.setH(45) # Y軸周りに45度回転
```

- **スケール (Scale)**

- オブジェクトの大きさを変更
- 1.0で元のサイズ、2.0で2倍、0.5で半分

```
cube.setScale(2, 1, 1) # X方向に2倍``
```

カメラと視点制御



・視点 (Camera Position)

- ・観察者の位置
- ・camera.setPos(x, y, z) で設定

・注視点 (Look-at Point)

- ・カメラが向いている目標点
- ・camera.lookAt(object) で設定

カメラ位置



視線方向



注視点

メッシュ



- **メッシュ (Mesh)**

- 3Dオブジェクトの形状を定義する頂点と面の集合
- loader.loadModel() で読み込み

- **Panda3Dの基本図形**

- models/box : 立方体
- models/plane : 平面

色の表現 (RGB)



- Red、Green、Blueの3成分
- 各成分は0.0～1.0の範囲
- setColor(R, G, B, A) で設定
- 例：(1, 0, 0)は赤、(0, 1, 0)は緑、(1, 1, 1)は白色

```
cube.setColor(1, 0.5, 0, 1)
```

ここまでまとめ



- ゲームループ
- デルタ時間によるフレームレート非依存
- 3D空間の表現: 3次元直交座標系
- シーングラフ: オブジェクトの階層管理
- オブジェクトの制御: 移動、回転、スケール
- メッシュ
- 色

ゲームエンジンの利用により 3次元アプリの開発が
容易になる

ライティングとシェーディング



環境光 (AmbientLight)

- ・全方向から均一に照らす光
- ・影を作らず、シーン全体を明るく照らす

```
ambient = AmbientLight('ambient')
ambient.setColor((0.4, 0.4, 0.4, 1))
ambient_np = self.render.attachNewNode(ambient)
self.render.setLight(ambient_np)
```

指向性光源 (DirectionalLight)

- ・太陽光のように特定の方向から平行に照らす光
- ・明確な影を作り、立体感を表現

```
sun = DirectionalLight('sun')
sun.setColor((0.8, 0.8, 0.8, 1))
sun_np = self.render.attachNewNode(sun)
sun_np.setHpr(45, -60, 0)
self.render.setLight(sun_np)
```

エンティティの生成と制御



3D空間内のオブジェクトをツリー構造で管理
例)

vehicle (親ノード)

 └ body (車体)

 └ wheel_fl (前左車輪)

 └ wheel_fr (前右車輪)

 └ wheel_rl (後左車輪)

 └ wheel_rr (後右車輪)

変換の伝播

- ・親ノードの移動 → 全ての子ノードも移動
- ・子ノードの移動 → 親ノードは影響を受けない

入力処理



2つの入力方式

- **イベント駆動**：单発の入力、ジャンプ、攻撃など

```
def jump(self):  
    if not self.is_jumping:  
        self.jump_force = 5  
        self.is_jumping = True  
    self.accept('space', self.jump)
```

- **キー状態管理**：継続的な入力、移動、回転など

```
self.keys = {'w': False, 'a': False, 's': False, 'd': False}
```

```
def setKey(self, key, value):  
    self.keys[key] = value  
self.accept('w', self.setKey, ['w', True])  
self.accept('w-up', self.setKey, ['w', False])  
# 状態チェック  
if self.keys['w']:  
    self.player.setY(self.player.getY() + self.speed * dt)
```

物理演算



- ・ベクトル：位置、速度、加速度を表現
- ・重力加速度：地表では約-9.8 m/s²（下向き）

物理シミュレーションの2段階計算

self.gravity = -9.8

ステップ1：加速度を速度に加算

velocity.z += self.gravity * dt

ステップ2：速度を位置に加算

new_pos = box.getPos() + velocity * dt

box.setPos(new_pos)

衝突判定



オブジェクトが接触しているかを座標で判定。

```
collision_z = 0 # 地面の高さ
```

```
if box.getZ() <= collision_z:
```

```
    box.setZ(collision_z) # 位置を補正
```

```
    velocity.z = -velocity.z * 0.5 # 速度を反転 (反発)
```

```
# 停止判定
```

```
if abs(velocity.z) < 0.1:
```

```
    velocity.z = 0
```

ここまでまとめ



ライティングとシェーディング

- ・環境光と指向性光源で立体感を演出

エンティティの生成と制御

- ・シーリングラフの階層構造
- ・親子関係による変換の伝播

入力処理

- ・イベント駆動とキー状態管理の使い分け

物理演算

- ・ベクトル、速度、加速度-運動方程式による位置更新
- ・衝突判定

